令和３年度　串間市立秋山小学校　自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン：素直で明るい少人数の児童、意欲ある教師集団、学校への理解と期待の姿勢をもった保護者、協力的な地域人材を秋山小学校の教育環境の「よさ」として生かし、教職員が一丸となって児童がしっかりとした夢をもち、夢の実現を目指して頑張る「明るい子、正しい子、強い子」の育成に取り組む。〔４段階評価　　４：期待以上　３：ほぼ期待通り　２：やや期待を下回る　１：改善を要する〕

評価項目	具体的目標	方策・手立て	自己評価 目標別	自己評価 総合	結果・分析及び改善策等成果と課題	評価者評価 目標別	評価者評価 総合	学校関係者評価委員の意見
生徒指導の充実	基本的な生活習慣の定着	１　基本的な生活習慣の定着の推進 ・家庭との連携による指導（個人面談、全体・学級懇談などの機会の活用） ・時を守り、場を清め、礼を正す教育の推進（率先垂範、立番指導の実施、整理整頓の指導、正しい言葉遣いの指導など）	3	3	○　「基本的な生活習慣の定着」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価100パーセントは達成することができなかった。今後は、家庭との連携を強化したり、指導、見届け、称賛のサイクルで指導したりすることにより定着を図っていく。	3	3	○　コロナ禍で、学校参観の機会は限られたが、どの児童も礼儀正しく、元気にはきはきと受け答えができており、基本的な生活習慣の定着は十分できていると感じた。
	望ましい人間関係の育成	２　生徒指導の三機能（自己存在感を与える、共感的人間関係を育む自己決定の場を与える）を生かした望ましい人間関係の育成 ・児童一人一人のよさを見出し、認め伸ばす教育の推進（学校生活アンケートや教育相談の実施、ハッピースマイル委員会の実施など） ・人権教育の推進（人権担当や関係機関と連携した指導など）	3		○　全職員で児童理解に努め、児童理解に基づいた指導を行うことにより、「望ましい人間関係の育成」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価100パーセントを達成することができた。 ○「学校生活について」に関するアンケート（児童）において全員が肯定的（学校が楽しい）な回答100％を達成できない月が2回あった。全児童にとって楽しい学校になるよう全職員で全児童を見守り、育てていく。	3		○　今後も、学校だけでなく地域全体で児童を見守り育てていくことが、更なる望ましい人間関係の育成につながるものと考える。 ○　今後も、全児童へのアンケートや観察などを通して児童の変化を見落とさず、全職員での共通理解や声かけなどに努めてほしい。そして、職員が児童に寄り添いながら、全児童にとって楽しい学校になるようにしてほしい。
	心の教育の充実	３　全教育活動をとおした心の教育の推進 ・道徳教育の完全実施と充実（交流学習による道徳の授業など） ・道徳参観日（１月）の実施 ・命の教育の推進（千羽鶴を贈る活動、県いのちの教育週間での取組、関係機関と連携した指導など）	3		○「心の教育」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価100パーセントは達成することができなかった。今後は、全教育活動を通した道徳教育をさらに推進していくとともに、教職員の指導力や資質の向上を図っていく。	3		○　児童を取り巻く環境が年々多様化する中で、順応できないことから人を傷つけたり、傷つけられたり、自殺に及ぶなどの事例を新聞、テレビ等で目にする。心の教育は児童にとって最優先の課題であることから、今後もしっかり取り組んでほしい。
確かな学力の定着	基礎・基本の学習内容の定着	４　基礎的・基本的な学習内容の定着とその活用 ・習熟の時間の確保（基礎的な学習内容の繰り返しの指導やスキルアップタイムによる活用問題の指導など） ・学力調査結果の分析及び考察に基づいた指導の改善	3	3	○　公開授業、授業後の授業研究会、学力検査結果の分析及び考察に基づいた指導法の改善を行うことにより、単元末テストでは、全学級、全教科において目標の平均８０点以上を超えることができた。 ○　県学力テスト、串間市学力検査結果の分析を基にして今後さらに指導法の改善に取り組んでいく。	3	3	○　学習の習熟度や定着度については、個人差もあり、一概に評価することはできないが、教師が学力向上に対して、常に熱心に取り組んでいる状況であると認識している。今後も、学力調査結果の分析等を活かして、児童一人一人にあった指導に取り組んでほしい。
	個に応じた指導の徹底	５　個に応じた指導の充実 ・個別の指導計画を生かした指導と計画の改善 ・個別指導の充実（タブレットの活用、TTによる指導など）	3		○　今年度全児童に配付されたタブレットについては、積極的に活用することができた。活用については、来年度もさらに活用が図られるように校内研究内容の一つとして取り組んでいく。 ○　個別の指導計画の活用が十分に図ることができなかったことから年度初めに全体で共通理解したうえで活用を図っていく。	3		○　児童一人一人の学習や生活等の成長を、全職員で十分に共通理解し、小規模校ならではのきめ細かな指導に取り組んでほしい。
	読書の習慣化	６　読書教育の推進 ・読書の時間の確保（朝の活動など） ・「くしまっ子読もうよ100冊」を含めた年間目標の設定 ・PTAと連携した家読（毎月１回）の推進	3		○　読書の時間の確保や年間目標を設定するなどの取組により、全児童が年間目標を達成することができた。	3		○　全児童が年間目標を達成できたことは大変すばらしい。今後も継続して読書活動を推進してほしい。
健やかな体の育成	基礎体力の向上	７　体力向上プランに基づいた取組の推進 ・教科体育の充実や外遊びの奨励（合同体育の実施など） ・年間を通した体力づくりの指導（サーキットトレーニング、一輪車、持久走など）とその成果を発表する機会の設定	4	4	○　体力向上プランに基づき、教科体育の授業開始時に鉄棒、肋木等を用いたサーキットトレーニングに取り組ませたり、ストレッチに取り組ませたり、昼休みに職員も一緒に遊んだりするなどの取組により、「体力向上プランに基づいた取組の推進」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	4	4	○　児童と教師が一緒になった、きめ細かい指導は、小規模校ならではの貴重な取組である。また、児童が体力向上に積極的に取り組む姿勢は心の教育にもつながると考えるので、今後も継続して取り組んでほしい。
	健康習慣の定着	８　基本的な健康習慣の定着と家庭と連携した指導の推進 ・エチケット点検の実施（毎週火曜日） ・「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち」「立腰指導」の習慣化（生活リズムチェックの活用など） ・養護教諭と連携した保健指導（学級活動など）の実施	4		○　毎月実施している生活リズムチェックの結果を通信や掲示物等で児童や保護者に伝えることで課題意識をもって健康に留意する姿が見られるようになった。また、養護教諭と連携した授業を年４回実施することにより、「基本的な健康習慣の定着と家庭と連携した指導の推進」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	4		○　生活リズムチェックの結果から、児童が伸び伸びと明るく充実した学校生活を過ごせるよう、ＰＴＡが熱心に取り組んでいる様子が伺える。

	食育の充実	9 食育指導の推進 ・「弁当の日」（学期１回）の実施 ・栄養教諭と連携した食育指導の実施	4		○ 毎学期弁当の日を実施し、調理技術に応じた目標を立て弁当作りに取り組ませたり、栄養教諭と連携した食育指導を全学年実施したりすることにより、「食育指導の推進」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	4		○ 食育指導の推進は、食べる喜びだけでなく体力向上にもつながるものと考える。また、地元の食材を使った地産地消の推進にも期待が高まるため、今後もいろいろなレシピに挑戦してほしい。
小中高一貫教育の推進	小小連携、小中高連携の充実	10 他校と連携した活動の推進 ・交流学習の推進（他校との直接・間接的な交流学習の実施）	4	3	○ 「基本的な生活習慣の定着」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価100パーセントは達成することができなかった。来年度も、新型コロナウイルス感染予防に努めながら、直接的な交流を実施していくとともに、タブレットを使った間接的な交流学習をさらに推進していく。	4	4	○ 秋山小の児童にとって、他校の児童との交流学習は重要な取組である。コロナ禍で今まで通りの交流は難しいと考えるが、今後も更なる取組の工夫を期待したい。 ○ 小さい時から、いろいろなことを見たり、聞いたりする体験は、とても大切なことである。コロナ禍で制約もあるが、今後も内容を工夫しながら推進してほしい。
	くしま学の充実	11 くしま学の活用 ・くしま学カルタの実施 ・実際に行く、見る学習の実施	3		○ くしま学カルタに計画的に取り組んだり、甘藷や茶・ピーマンなどの農業従事者の方への訪問や、消防署などの地域の安全を支えている方々の努力について学んだりすることにより、「くしま学の活用」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	4		
地域・家庭との連携	家庭や地域との連携	12 家庭や地域と連携を図った取組の推進 ・PTAや地域民と連携した活動（運動会、グランドゴルフ大会、餅つき会など）の実施 ・敬老の日に手紙を送る取組の実施	3	3	○ 新型コロナウイルスの影響で地域民との交流に制限があったが、グランドゴルフや敬老の日の手紙等を通して地域高齢者との交流を行ったことにより、「家庭や地域と連携を図った取組の推進」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	3	3	○ 児童とのグランドゴルフを通じてのふれあいを楽しみにしている人が多くいる。今後も、高齢者との交流活動を継続してほしい。 ○ コロナ禍で、学校だより等の情報発信が、家庭・地域にとって必要な情報源となっている。今後も学校・家庭・地域の連携を密にするために、学校からのきめ細かい情報発信をしてほしい。 ○ 秋山の教育を語る会（学校評議員会）の一員として、教育環境の充実や学校評価に携わることができた。また、児童とのふれ合いを大切にしながら、過ごすことができた。今後も、全児童がしっかりとした夢をもち、夢の実現に向けてがんばってくれることを期待する。
	学校教育への協力・理解の促進	13 家庭・地域への情報発信 ・各種「たより」「メール」「ホームページ」等での情報発信	3		○ 地域回覧を用いた「学校だより」の毎月発行や、ホームページの定期的な更新により、「家庭・地域への情報発信」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。	3		
	家庭・地域との信頼関係の構築	14 学校評価を生かした学校運営 ・学校への意見に対する組織的かつ真摯な対応 ・保護者・地区民（秋山の教育を語る会員）の学校評価アンケートの実施と活用	3		○ 保護者からの要望や意見に対して全職員で速やかに対応することを心がけたり、職員から保護者に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めたりすることにより、「学校評価を生かした学校運営」に関するアンケート（保護者・職員）肯定的評価１００パーセントを達成することができた。今後は、地区民（秋山の教育を語る会員）の外部評価の結果や意見を真摯に受け止め、来年度の学校運営に生かしていく。	3		